

高砂銀座商店街

高砂銀座商店街が位置するエリアは、江戸時代（1603～1867年）に数人の鍛冶屋が小さな工房を開き、町の名前を「鍛冶屋」と名付け、それから人々の拠点として発展し始めました。

鍛冶屋が増えるにつれ、町は商人にとって魅力的な場所となり、やがて茶屋や遊郭もできました。

1926年に高砂駅が建設されると、この地域は高砂銀座商店街と呼ばれる繁華街へと発展しました。さまざまな商品が売られ、駅周辺は賑わいを見せました。1984年に駅が閉鎖されると、商店街は衰退し、一部の店舗はシャッターを下ろしました。しかし現在、このアーケードはレトロな魅力にあふれ、日本の懐かしい時代の雰囲気を感じられる場所として再び人気を集めています。毎月第3土曜日に開催されるマーケットには、地元の特産品を販売する業者と、アーケードの歴史を味わいたい観光客の両方が集います。